

平成 25 年度 第 2 回横須賀市まちづくり評価委員会会議 会議概要

- 日 時 平成 25 年 7 月 25 日（木）15:00～17:00
- 場 所 市役所 1 号館 3 階会議室 A
- 出席者 【委員】
細野委員長、松本委員長職務代理者、石坂委員、大武委員、葛委員、
川名委員、木村委員、佐々木委員、西原委員、山本委員（委員は 50 音順）
【事務局】
上条政策推進部長、松田政策担当課長、宮川主査、鈴木
- 傍聴者 なし
- 資 料
- ・資料 1 基本計画重点プログラム市民アンケート結果
 - ・資料 1 別冊 基本計画重点プログラム市民アンケート結果参考資料
 - ・資料 2 基本計画重点プロジェクトの目標と重点事業の実施状況
 - ・参考資料 1 横須賀市まちづくり評価委員会の概要
 - ・参考資料 2 横須賀市基本計画重点プログラム関連資料
 - ・参考資料 3 基本計画重点プログラム評価結果報告書（平成 24 年度版）
 - ・横須賀市基本計画（2011～2021）
 - ・横須賀市実施計画平成 23 年度（2011 年度）～平成 25 年度（2013 年度）
- 議事内容
1. プログラムごとの検討
 - （1）重点プログラム 3 『環境を守る』
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～
 - （2）重点プログラム 4 『にぎわいを生む』
～地域経済の活性化と雇用の創出・
集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～
 - （3）重点プログラム 5 『地域力を育む』
～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・
地域を支えるコミュニティ機能の強化～

概 要

15:00 開 会

1. プログラムごとの検討

（1）重点プログラム 3 「環境を守る」

～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

事務局から、アンケート結果などについて説明を行った。

《アンケート結果》

- ・実現を目指す都市の姿（環境と調和した潤いのある都市）／取り組みの方向性の状況

いずれも図表上で右上の象限に位置し、DI の値も高い

23 年度の調査との比較でも右上方にシフト

- ・「3－1 人と自然が共生するまちづくり」の主な回答理由

現在について

良…海・山・公園など自然が多い、気候が良い、空気がきれいなど本市の自然環境
そのもののよさ

悪…宅地造成、マンション乱立、施設建設など開発による自然破壊

以前との比較

良…公園・海岸線の整備、市の施策の充実

悪…宅地造成、マンション乱立など開発による自然破壊

- ・「3－2 地球環境に貢献するまちづくり」の主な回答理由

現在について

良…ごみの分別・リサイクルの徹底、アイクル・ごみ処理施設の整備、地域活動や
ボランティア活動が盛ん、環境教育の充実

悪…環境施策が不十分、進歩がない、取り組みを知らない、目立つものがないなど
市の取り組みに対する不足感

以前との比較

良…市民の意識向上、地域活動やボランティア活動が盛ん、分別・リサイクルの徹
底、ごみの広域処理化

悪…自然の減少、宅地造成などによる自然破壊

- ・「3－1 人と自然が共生するまちづくり」の地域別傾向

今回調査

「現在について」「以前との比較」ともに全ての地域で DI がプラス

特に「久里浜・北下浦地域」は値が高い

23 年度調査との比較

「西地域」で「現在について」「以前との比較」ともに大幅な上昇

「追浜・田浦地域」はいずれの DI もマイナス

- ・「3－2 地球環境に貢献するまちづくり」の年齢別傾向

今回調査

「現在について」「以前との比較」ともに全ての年齢層で DI がプラス

特に「70 歳以上」の値が高い

23 年度調査との比較

「現在について」の「40 歳代」で大幅な上昇

「以前との比較」の 30 歳代以下の若年層で 20 ポイント以上の大幅な低下

《重点プロジェクトの目標の状況》

- ・「3－1 人と自然が共生するまちづくり」

近隣緑地特別保全地区の指定面積：基準値（平成 21 年度）244ha／直近 244ha で変
化なし

市民 1 人当たり公園・緑地面積：基準値（平成 21 年度）10.81 m²／直近 12.7 m²で
増加

・「3-2 地球環境に貢献するまちづくり」

市域の温室効果ガス排出量：基準値（平成 20 年度）2,385 千 t／現状ではその後の数値の把握なし

ごみの総排出量：基準値（平成 21 年度）158,746t／152,787t で減少、目標は達成

（松本委員長職務代理者）

- ・「3-1 人と自然が共生するまちづくり」では、横須賀市の自然の豊かさが肯定的に捉えられて実感が得られているようだが、市の施策についての評価をどの程度考えられているかという視点で見た場合、効果が目に見えてきているとか、このような取り組みをしたから実感につながっているなど、何が影響しているのか分からないので教えてほしい。
- ・資料 2 の p11「市民 1 人当たり公園・緑地面積」の数値が上がっていることについては、人口が減少しているからではないのか。必ずしも褒められることでもなく、仮に同じ人口で推移していれば数値が上がっていないのではないのか。

（事務局：宮川主査）

- ・この一年間に、新しく 2 つの公園が整備された。特に「佐原 2 丁目公園」というサッカー場が併設された公園が整備され、公園面積にも影響している。これらが少しは回答に表れていると思う。
- ・回答理由として横須賀市の自然のよさが多く挙げられていて、施策に対する実感が分からないという点については、みどりの保全など目立つものがあるかという施策としてはなかなか難しいところがある。市そのものの魅力からの評価が高いのだろうと思っている。

（松本委員長職務代理者）

- ・とは言うものの、資料 1 別冊を見ると、最近の横須賀市の取り組みがなんとなく感じられてよい回答になっているようにも思う。
- ・もう 1 点として、公園が整備されたとのことだが、目に見えて整備しているものが出てきて、評価が上がったという印象もある。今までのアンケート結果と比較して、横須賀の取り組みが評価されているように感じられるが、実感としてどうなのか。

（細野委員長）

- ・市民の方にアンケート結果の傾向が実感としてあるのかどうか聞いてみたいが、川名委員はいかがか。

（川名委員）

- ・私たちが何かを判断するとき、年代的にも紙面で見ることが多い。広報よこすか等で、市の取り組みや講じている対策などが取り上げられていると、取り組んでもらっているのだと思う。70 歳代の実感が高いとあるが、広報を見るのは 60、70 歳代が多いし、広報活動のお陰かと思う。
- ・ほかに、エコ関係での NP0 法人のサポートの増加があると思う。西地区の実感が上がっているが、例えば、西地区の前田川を保全しているグループがあり、盛んに活動されていたりする。そのようなことを紙面で拝見すると、市がサポートしている、市民も頑張っているということが感じられるのではないのか。

- ・一方、マンションが多いという点については、折り込み広告などでは航空写真が多く使われているので、山が削られてしまったということをまざまざと見ることになるので、そのようなことも影響しているのではないかな。

(大武委員)

- ・否定的な回答理由で、「自然が残っていることによる住みにくさ」というものがあるが、どのような意味か。

(細野委員長)

- ・例えば、多摩ニュータウンは、元の地形をなるべくそのまま使うということで、表土だけを剥いで坂道などはそのまま残っている。若い人はよいが、高齢になると辛い。横須賀中央駅も階段が多くてお年寄りは大変だろうなと思うのだが、そのような解釈でよいかな。

(事務局：宮川主査)

- ・例えば、資料1のp51「自然はあるが、山の上、道路が狭いなど人が住みにくい」等、委員長が仰るとおり、自然はあるものの階段道などが多かったりすることでの住みにくさという趣旨の記載である。

(大武委員)

- ・最近、整地された土地が目立ち、繁華街の裏などは駐車場にされているところが多い。変化が激しく、跡地が上手に活用されるには集約などが期待されるが、現状は有料駐車場が目立っている。まち自体が様々なことで非常に変化している中で、どのような変化の方向に主導していくのか、どのようなまちづくりをしていくのか。コンパクトシティを進めようとするのか、現状のままでいくのか、岐路に立っているように思う。

(細野委員長)

- ・非常に重要な問題である。事務局から意見はあるか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・民間の土地で、市は誘導する方向性は打ち出せても、経済社会なのでなかなか仕切れないということはある。ただ、人口が減少していく中で、なるべくコンパクト化していくという方向性は持っている。

(西原委員)

- ・徐々に山の上から下りてきているが、上に住んでいる方は本当に大変だと思う。一方で、上から見るとみどりがなくなっていて、開発が進んでいることが分かり、これ以上開発すると自然がなくなるのではないかと不安になるが、それでもまだマンションは増えている。横須賀の地形による宿命である。

(川名委員)

- ・経済効果でマンションや宅地造成は両輪だと思うが、カモフラージュはできるように思う。東戸塚・保土ヶ谷間で味の素の工場跡地がマンション群になったが、公園のような造り方をしていて、元々桜並木が有名なところだったので、それらを残したりしている。

宅地造成したときに、まちづくりの規制を設けて、自然を生かしたきれいなマンション群などにすれば、公園という雰囲気になって市民の印象が変わると思う。

- ・子育てしている母親たちの間では、公園がないという意見と公園がたくさんあるという意見が分かれる。ハイランドなど宅地造成したところは計画的に公園が造られているが、津久井浜や長沢など昔ながらの土地で自然発生的にできたところは、「ソレイユの丘」など大きいところはあるが近くで遊ぶところがない。計画的に宅地造成されたところのメリットだと思う。

(細野委員長)

- ・環境問題について、環境教育などでは、子どもたち、保護者はどのような意識を持っているのか。

(山本委員)

- ・学校では、環境教育は3年から6年の「総合的な学習の時間」をはじめ各教科や特別活動の時間で学んでいる。各学校で創意工夫を生かし取り組んでいる。学校は、子どもたちにとって、目の前にある環境についてどう考えるかを学びやすいところだと思う。大人よりも環境を守っていこうという意識があると思う。子どもたちが、自分たちの住んでいる横須賀、地球をどのように守っていくかということは今後も学習していく必要があると思う。

(細野委員長)

- ・資料1のp50で、29歳以下、30歳代は以前との比較で大幅に低下となっている。若い方はどう感じているか。

(石坂委員)

- ・資料1のp43にあるように、DIが50ポイントを超えていることを大変評価していて、p50のように低下していることには疑問を持っている。50ポイントを超えていることについては、横須賀の環境に対する愛着が若年層で高まっているのかなと思う。
- ・「3-1 人と自然が共生するまちづくり」の重点事業の中で、「横須賀エコツアー推進事業」があるが、緑地保全や公園の整備も大事だが、より直接的に自然と触れる機会を設けていただくような事業を展開できれば、実感が低下した原因の改善になるのではないかなと思う。
- ・個人的には、横須賀が好きで、アウトドア派でもあり環境に接している機会が多いので、何故、実感が低下しているのか分からない。

(松本委員長職務代理者)

- ・低下というのは、よい回答と悪い回答の差がなくなったということなので、もしかしたら前回はその差が極端に開いていたものが、今回はよい回答が減ったか悪い回答が減ったかで差が小さくなったということかもしれない。低下といっても、評価の仕方が変わったのか、どのように考えるかによって違ってくるし、中身を精査しないと何とも言えない。

(細野委員長)

- ・29歳以下の以前との比較の43.1ポイントから21.7ポイントへの推移はどのような計算なのか。

(事務局：宮川主査)

- ・資料1のp49下段の表で、例えば29歳以下では、25年度の肯定的なポイントが39ポイント、否定なポイントが17.1ポイントである。比較している23年度は、肯定的なポイントが52.9ポイント、否定的なポイントが9.8ポイントだった。肯定的なポイントが減り、「変わっていない」が増えていて、否定的なポイントも増えている。

(細野委員長)

- ・この辺りの動きの原因が何であるかということだと思う。

(事務局：宮川主査)

- ・資料1の別冊p5、6で、29歳以下は、山が壊されているということを目にすると単純にそう思うのかもしれない。

(細野委員長)

- ・市としてのターゲットの人口層をどこに置くかによるが、30歳代、29歳以下にかなり重きを置いて定住していただくことを考えると、ここはすごく大事だと思う。何故、低下したのかを精査していただけるとよいと思う。

(大武委員)

- ・横須賀には海辺の環境、まちの環境、田園の環境とある中で、東京湾側は人工的な整備がされて人が多く住んでいる。その近くは山も宅地造成している。西は交通アクセスの問題もあるが自然を残しているという二極になっている。
- ・東京湾側は京急や交通利便性のよさで人が住みやすいということで、そちらを重点にしてまちづくり、地域づくりが行われているので、どのように自然を補完するか。みどりの育成が必要かもしれない。西側は保全しながら、どのように住みやすさを作りだすか。そのような政策課題かと思う。

(細野委員長)

- ・地域によって異なるということだろう。事務局は、年代別、地域別で2重クロスで傾向を見られるか。

(事務局：宮川主査)

- ・可能である。

(佐々木委員)

- ・交通事業者という側面のほか、宅地開発や観光事業等を行っているので様々な面で関連するところだと思うが、不動産関係については佐島の宅地開発などがある。交通の便はあまりよいところではないので、なかなか購入できる方は限られるのかと思うが、逆に、ゆとりのある暮らしができる、自然の中での暮らしができるという点で、購入されたのもそのような方が多い。

- ・一昔前のような自然を壊しての宅地開発は、消費者にも評価されなくなっている。マンションでもそうだが、みどりが多い、公園がある、環境と離れるが託児施設がある、防犯面が優れているというところが評価につながってくると思うので、開発の観点では、環境や地形を生かした造成、開発をしていくことが必要なのかと思う。
- ・エコツアーの話が出ていたが、横須賀市ではそのような取り組みに非常に力を入れていて、私たちも賛同しているので、協力して是非一緒に取り組んでいきたいと思っている。横須賀の強みは、やはり首都圏から近いところに豊かな自然環境が残っているということだと思うので、そのような強みを発信していくような取り組みは応援したいと思うし、一緒に推進したい。告知のほか、旅行商品等になると思うが、環境をウリにしていくなような取り組みをしていきたい。
- ・若い人の評価が下がった点については、数字の取り方もあるのかと思うが、継続して見ていくことが大事だと思うし、若い方に来ていただかないと将来的な人口も増加していないので、委員長が仰ったように注目していくべきところだと思う。

(山本委員)

- ・学校教育の中で、環境教育を実際に受けた石坂委員、葛委員は、子どもの頃から環境に対する視点を持ってきたと思うのだが、この実感が低下しているのはそのような年代なのかなと思う。環境教育はどのように受け止められていたのか。

(葛委員)

- ・小学生の頃からごみ処理場やアイクルなどに社会科見学で行っていて、横須賀は環境について進んでいるまちだとインプットされている。大学生になって他のまちに出ても、ごみ分別などの区分が細かいことに驚かれるし、今でも環境問題には進んで取り組んでいるというイメージは変わっていないのだが、アンケートの回答理由にある「施策の効果が分からない、取り組みが見えない」という、正にその点なのかと思う。
- ・建物が建っていることも知っているし教育も受けてきているが、大人になってそれらがどのように影響しているのか、効果が出ているのかと深く考えたときに、それらがどこに広報されているのか分からない。建物が建っているだけではそれが当たり前になってきてしまっているので、本当にそれが横須賀の誇れるものなのかどうか、意識がどんどん薄れてきているのかと思う。

(細野委員長)

- ・若い人のほうが要求水準が高くて、現在の状況はもはや当たり前であり、横須賀はもっと踏み込んだ施策を行って、“見える化”していかなければいけないということだろう。
- ・環境は、横須賀にとってとても大事なまちづくりのキーワードだということが、この会議での一致した意見だと思うので、次回の「都市の魅力」のところでも触れる必要があるかもしれない。

(木村委員)

- ・私たちの年代は、舗装されてない、ごみも出せばなしだったので、現在はクリーン活動等で非常によく実感しているが、年代によって差があるのかもしれない。
- ・横須賀のクリーン活動は日々目にするので、その点ではどの年代においてもよく実感していると評価されているように思う。

(細野委員長)

- ・ごみの総排出量は目標を達成しているということなので、それならもっと高い目標にした方がよいかもしれない。大変だとは思いますが、一つのアピールすべき政策なのかと思う。

(松本委員長職務代理者)

- ・若い方の回答数が少ない。どんどん減ってきているので、この少なさが回答の傾向にダイレクトに出てしまうということも影響していると思う。23年度の78人から今回は64人と約15人も減っているので、1人の回答の影響が大きく出てしまう。若い方にも積極的に回答していただけるようになるとまた違うと思う。

(2) 重点プログラム4 「にぎわいを生む」

～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

事務局から、アンケート結果などについて説明を行った。

《アンケート結果》

- ・「実現を目指す都市の姿」（にぎわいと活力に満ちた都市）の状況
図表上で左下の象限（「現在の状況」「以前との比較」とともにマイナス）に位置
平成23年度との比較でも変化がなく実感が得られていない
- ・取り組みの方向性の状況
4-1は23年度との比較では、右上の方にシフトしている
DIは「現在について」「以前との比較」とともにマイナス
4-2は変化がない状況
「以前との比較」では15ポイントを超えており一応の実感は窺える
- ・「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」の主な回答理由
現在について
良…市の施策や観光事業の充実（地産池消、よこすかポートマーケット、すかなごっそ、軍港めぐりが多い）
悪…雇用の減少・低賃金、企業の減少・撤退、商店街の空き店舗の増加、地域経済の衰退
以前との比較
良…市の施策の充実（地産池消、よこすかポートマーケットが多い）
悪…中心市街地・市全体ににぎわいや活気を感じない・寂れている、雇用の減少、商店街の空き店舗の増加、地域経済の衰退・活気がない
- ・「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の主な回答理由
現在について
良…イベント・土産物など観光事業の充実、観光客の増加、マンション・住宅地の開発が進んでいる
悪…魅力ある商業施設の減少、商店街の衰退、買い物客の市外への流出、市の施策に対する不足感や方向性に対する疑問
以前との比較
良…イベント、土産物などの観光事業の充実、観光客の増加

悪…魅力ある商業施設の減少、商店街の衰退、買い物客の市外への流出、中心市街地に活気がない・空洞化

- ・「4－1 地域経済の活性化と雇用の創出」の年齢別傾向

今回調査

DI がプラスとなったのは「以前との比較」の「29 歳以下」のみで全体的に実感が得られていない

特に「現在について」の 50・60 歳代のマイナスが大きい

23 年度調査との比較

「現在について」の「29 歳以下」「70 歳以上」の値が大きく改善

- ・「4－2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の地域別傾向

今回調査

30 歳代以下の若年層のみ「現在について」の DI がプラス

「以前との比較」では全年齢層でプラス

23 年度調査との比較

「現在について」「以前との比較」とともに「30 歳代」「50 歳代」で低下、特に「30 歳代」では大きく低下

29 歳以下ではいずれも上昇し若年層の間で傾向が異なる

《重点プロジェクトの目標の状況》

- ・「4－1 地域経済の活性化と雇用の創出」

地産地消ショップ登録店舗数：基準値（平成 21 年度）90 店／直近 221 店、目標の 220 店を既に達成

新規立地企業数、商店街における空き店舗率：目標に向かって推移

- ・「4－2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」

観光入込客数：基準値から 150 万人増加し、3 年後の目標を大幅に上回っている

観光ボランティアガイド等の案内実績数：基準値を下回っている

人口社会動態の数（30、40 歳代）：数値把握できない

（川名委員）

- ・にぎわいの大きな要素として、人の往来は当たり前だが見えるところが大事である。例えば、京急久里浜駅から横須賀総合高等学校への通りがにぎわっているように思う。商業的な面は別として、高校生の通学路なので皆の気持ちが明るくなる。子ども、学生、特に高校生などを上手に回遊させるような手立てがあるとよいと思う。
- ・近くに AEON があるが、溜まり場になってしまうので、注意を促す貼り紙がされている。高校生はそのような集まれる場を求めている。久里浜商店街の AEON へ続く道筋の周囲はある程度にぎわうが、商店街の中には人が入ってこないという問題があるので、高校生が呼べるような仕組みづくりがあるとよい。
- ・商店街の空き店舗は高校生がポイントであると同時に、これからの商店街の枠組みを考えるには人に来てもらうこと以外の新しいことを考えるとよいと思う。保育園が不足している中、商店街の多くは駅の近くにあるので、NPO 法人等による託児施設があると、子どもや若い親たちが行き交ってよいと思う。商店街を新しい取り組みの中で考えていくことが大事かと思う。

(細野委員長)

- ・単に空き店舗がなくなってチェーン店が入るということでは、恐らく商店街を潰すと思う。コミュニティーニーズがきちんとマッチするものをどう考えるか。空き店舗率が下がってよい、という話ではない。
- ・地産地消ショップ登録店舗については、店舗が手を挙げるのか、市が声をかけるのか。

(事務局：宮川主査)

- ・店舗に手を挙げてもらっている。

(細野委員長)

- ・手を挙げた店舗が基準に適合しているかどうかの審査等を行っているのか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・一定の基準を設けて行っている。

(山本委員)

- ・「イベントがある」という回答理由が見られるが、イベントとはどのようなことを指しているのか。

(事務局：宮川主査)

- ・よこすか開国祭、カレーフェスティバル、YYのりものフェスタなど、イベントについては多くの取り組みを行っているし、同時開催など回遊性を高める工夫もしている。

(細野委員長)

- ・否定的な回答理由でも「イベントがない」などが見られる。イベントが商店街や地域のために直結しているかどうかということも問われているように思う。大規模なイベントが本当に地域の活性化に役立っているのかどうか、意見が分かれるという点は注目する必要がある。

(山本委員)

- ・イベントが地域に直結している実感がないから、「にぎわいや活気を感じない」という否定的な回答になっていると思う。地域と直結したイベントを推進していく必要があるかと思う。
- ・追浜地域は年間で、商店街、観光協会、地域が連携したイベントが幾つかある。追浜地域の住民の皆さんがどのように感じているのかをお訊きしたかった。私は、商店街、行政センター等が連携して頑張っていらっしゃると思う。学校も追浜ソーランや仮装パレードに参加する等、連携して取り組んでいるし、そのような盛んな地域もある。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・恐らく、よこすか開国祭で20～30万人、カレーフェスティバルで5万人、YYのりものフェスタは米海軍基地の開放と併せて行うので7、8万人の人出がある。中央地域で行っているイベントと地域のイベントは規模が異なるので、このような結果になるのだろう。

- ・これらのイベントは、どちらかというと行政が主体で地域に協力していただいているものだが、追浜地域は地域の皆さんの自主性が高い。やらされている感がないので、イベントで盛り上がるときに、行ってただ参加しているのと、自分たちで企画して参加しているのでは、イベントに対する感じ方が違うのかと思う。ここ数年の追浜地域の盛り上がりはすごいと私たちも感じている。

(細野委員長)

- ・市にある幾つかの商店街を活気がある、ないなど分類して、どのようなリーダー養成をしていけばよいかなど、政策的に取り組んでいるのか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・人づくりは大切と思っている。盛り上げは市としても取り組むが、属人的なところがあるように思う。盛り上げる中心になる行政側の属性、商店街の年齢層、やる気の度合いなどがあって、属人ではなくあらゆるところで同じようにできるノウハウはこれから考えていくべき大事な視点かと思う。

(川名委員)

- ・追浜で町おこしをされている NPO 法人「アクションおっぱま」がある。追浜が頑張っている原動力は何かと考えたとき、その答えが「アクションおっぱま」かと思う。リーダーが元関東学院大学の教授（昌子氏）で、ご自身で町おこしをしたいと商店街を取り込んで活動されているのだと思う。素人で熱意をもって取り組むことも大事だが、やり方の道筋をつけるにはそのような専門家が一緒に取り組むことが大きいかと思う。
- ・追浜でイベントをしたい場合にも、その方にお話をするとスムーズに進む。商店街や地域と非常に密着して活動されているし、行政センターとのつながりもあってよいかたちだと思う。

(佐々木委員)

- ・弊社で「普通電車の旅」というフリーペーパーを発行している。色々な駅を紹介しながら足を運んでもらうことを狙いとするものだが、昨年、追浜の特集をさせていただいた。非常に面白い取り組みをされていて、サンバのパレード（追浜まつり）など、沿線ではあっても私たちも全然知らないことが多くあった。
- ・行って見聞きしないと分からないことというのはやはり多い。地域のまつりやイベントなどの小規模なものも、もう少し沿線や地域を広げて発信していけるような仕組みがあると面白いし、ただ紹介するだけではなく、ここに行くということがあるよ、と言えらともう少し人の動きも出てくると思う。web など出てきているので、冊子だけではなく web を使った仕組みも弊社では考えていきたいと思っている。

(木村委員)

- ・産業まつりがあるが、ここ数年、にぎわいが出てきて県外からも人が来ている。継続性が必要だと思う。
- ・商店街と近隣の住民のつながりで、今年の「うわまち浪速灯ろう祭り」では基地の方がたくさん来ていた。商店街のポスターに英文でも併記されていて、さらに基地に勤務されている方がそれを基地の中に持ち込んで貼ってくれたと聞いた。外国人が多く大変にぎわっていた。町おこしの一つとして、商店街が寂れてきている中で再び活性化させよ

うとする人もたくさんいて、それを住民がサポートしていることを感じている。

- ・イベントは否定的な回答理由にも挙がっているが、もう少し長い目で見てもらえればと思う。

(西原委員)

- ・何とかして市外の人を呼び込みたい。市外の人に来ないと横須賀がなかなか元気にならない。軍港めぐりは素晴らしいし、市外の人が大勢来ていて何年経っても人気は衰えない。一つの横須賀らしいところである。
- ・横須賀に行ってみたいと思えるようなイベントが各地で色々あるので引き付けたい。大津諏訪神社があるが、県下では箱根神社に次ぐくらい格が上がってきていて、人が来るようになった。来年は長野県の諏訪大社から御柱の木落ししたものを持ってくるになっている。市内の人は勿論だが県下の人を集めたいと、2、3年計画で頑張っている。
- ・おりょうさんまつりでは、おりょうのお墓が信楽寺にあるので市外からも人が来る。造詣の深いファンがいる。そういうものを利用して市外から人を集めたい。横須賀は各地に色々な素材がある。
- ・埼玉、東京など海のない地域の人横須賀に来ると感激する。海を生かしてほしい。
- ・折角、横須賀に来て、数時間滞在して帰ってしまう。横須賀は宿泊してもらえないと伸びない。宿泊施設の問題や、バスを停車させる駐車場がないこともある。軍港めぐりにしても近くに停車するところがない。地理的な問題もあるが、市外の人を呼ぶ努力がまだまだ必要かと思う。

(細野委員長)

- ・イベントが地産地消やレストランなどにつながるとよい。今以上にそういう工夫をしないと相乗効果が出てこない。観光協会等がコーディネートする仕組みになっていると思うが。

(石坂委員)

- ・友人が追浜に住んでいるが、追浜のイベントの企画段階から参加している。地域と密着したイベントを行っていく際に、地域住民が企画段階から参加することが重要だと気付かされた。
- ・一方で、イベントの企画をするときにすぐに人が集まるかというと、特に若い世代は難しいと思う。若い世代が日頃から地元の取り組みに参加できるような仕組み、話し合いの場などを設けていけば、その結果としてイベントの企画がよりよくなっていくと思う。

(葛委員)

- ・ペリー祭などのイベントに合わせて、久里浜商店街でフリーマーケットなどを毎年行っているが、年に2回程で数は多くない。
- ・久里浜商店街にあるお店の話では、商店街を盛り上げようとは思っているが、自身の店の経営状況を考えるとそこまでの余裕がない。商店街が盛り上がれば自身の店にも人が来ることは分かっているが、自分たちの生活や目の前のことを考えると、その先のことまで考えられないそうだ。
- ・若い人が少なく、ある程度の年齢の方が中心なので、柔軟性に乏しい印象もある。若い人が何かよいことを提案しても受け入れてもらえないという問題もあり、どんどん若い人たちのやる気もなくなっていくという悪循環がある。行政がアドバイスなどをして活

性化し、若い人の意見も取り入れていかないと新しいことは生まれていかないとと思う。

(川名委員)

- ・柔軟性について、中学生の職業体験を商店街で受け入れているが、子どもたちがいると華やいでいる。大人は子どもたちには甘くなるので、例えば自分の子どもから言われた意見は受け入れられなくても、職業体験の子どもたちからなら受け入れるかもしれない。商工会議所とタイアップして高校生の職業体験まで受け入れてもらえると新しい意見を聞いてもらえるのではないかな。

(細野委員長)

- ・雇用についてはどうか。否定的な回答理由で「魅力的な仕事がない」などを出ている。今後は共働きが一般的になってくるだろうが、女性が子育てと両立するには職住近接は大事で、今、居住地を選択するのは女性なので（仕事がないと）住みにくい気もする。企業誘致、事業所の創出、ベンチャー、コミュニティービジネスの発掘などは、資料2にあるとおりか。

(事務局：宮川主査)

- ・資料2のp25に具体的には出ている。実際に新たに誘致している企業も大きくはないが幾つかある。そのような動きはあるが、全体として実感がないのだと思う。働き口としては、福祉系はたくさんあるのだが、就職希望者とのマッチングがなかなか上手にいかないという話を聞いている。

(大武委員)

- ・非常に難しいところである。横須賀は自動車製造業などが中心だったが潮が引いてきている。関東化成工業など特徴ある会社は流動する。今後、グローバルな地域の会社が出てこないといけないのではないかな。NTTの研究所がYRPにあるので、そこにビッグデータの回線センターを置いてもらうなど皆が驚くようなことが実現できれば注目されるかもしれない。どこの地域もそのようなことを狙っているので厳しいだろうが、そうすると、市民の気持ちが活性化するかもしれない。

(細野委員長)

- ・参考だが、東京23区の一事業所当たりの従業員数と多摩市の従業員数は1対4で、多摩市のほうが大企業が多い。しかし、グローバル化してくると大企業は中国などに出てしまう。一事業所がなくなるダメージは、多摩市は東京23区の4倍になる。そのようなことを考えると、大企業を誘致して雇用先をつくっても、なくなると響くので、中小企業でいかにたくさん雇用を創出できるかが大事になる。
- ・今までみたいにもものづくりも大事だが、コミュニティービジネスやベンチャーなど、YRPにもかなり大きい企業が誘致されているので、それらが裾野を広げていくように機能してくれるとよいと思う。そのためにはどうするか。資料2から、ベンチャー企業の育成、産業PR、創業支援など、色々取り組まれているようだが。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・シャープの亀山工場の撤退など、グローバル企業を日本の中で誘致するのがよいのか悪いのか。ダメージが大きい。今、工場を造るにも10年後に撤退するつもりでの工場の造

り方をするそうで、注意しなければいけないところである。

- ・ YRP には 5,000 人以上勤務されているが、研究所なので特殊な能力が必要で、市民の方を雇用するのはなかなか難しい。内部を管理する業務、清掃など、事業所があることによって派生する仕事で雇用が生まれているという実態がある。
- ・ ベンチャー事業については、横須賀で育てているところが多くある。関東化成工業もベンチャーから始まっているし、日本でそこしかつukれないという特殊技術のベンチャーもある。一方で、最近の傾向としては、横須賀で商品をつくったり情報サービスを立ち上げたりしても、成功する会社はそこをステップに東京に出てしまう。横須賀で経費を投じて育ててもしばらくすると東京に行ってしまうので、やはり横須賀ならではの特性を考えなければいけないと思う。
- ・ また、横須賀は特殊で、例えば横浜市港北区などはベッドタウンで、昼間は人がいなくて商業施設だけがあって東京に通勤するが、横須賀はベッドタウンだが産業も幾つか大きな会社があるのが強みである。ベッドタウンになってしまうと、一度家を購入するとそこでそのまま歳を重ねていってまちが老朽化していくが、横須賀は比較的企業があるので、その人事異動などで少し人の移動がある。その強みと、かといってなかなか製造業では難しいという点をどのように考えていくかが重要であると思っている。
- ・ 雇用のミスマッチについては、ハローワークに行くと介護や医療関係の求人はたくさんあって人出が足りないぐらいだが、一方で皆が就きたいのは事務職で、事務の求人は圧倒的に少ない。当たり前だが、きれいで、3Kではないので、事務に就きたいが、事務の募集はない。建築もたくさん求人があるが、嫌がられる。このミスマッチが起きているので、そのマッチングをどのように図っていくかがポイントになる。

(大武委員)

- ・ 確かに、今、ハローワークに行くと、薬剤師やヘルパーなどがほとんどである。横須賀が、製造業でいくのか商業でいくのか観光事業でいくのか介護事業でいくのか、筋立てをして方向づけていかなければいけない時代かもしれない。
- ・ 特に、介護については非常に働く人たちの課題がある。ハードとソフトがあって、例えば保育所などを増やしても保育士の人材が不足するからミスマッチに直面する訳で、若い人たちがそういうところに積極的に取り組める、将来を託せる事業基盤をどうやってつくっていくかが課題だろう。

(細野委員長)

- ・ データでは、神奈川県は人口の割には大学数が少ない。東京の大学からすると草刈場である。大学は一つの人材供給の場でもある。シリコンバレーもそうだが、土地があるなら、大学などの立地、それに伴うサービス業なども期待できるので、そういうことも考えていく必要がある。今は県立保健福祉大と神奈川歯科大があるようだが。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・ キャンパスを誘致するような土地がないのが実情である。企業を誘致できる土地もかなり限られている。

(木村委員)

- ・ 今、製造業が中心ではあるが、横須賀には JAMSTEC (海洋研究開発機構) があり、正社員ではなくても雇用が出てきている。また、土地がなくても、ナショナルトレーニング

グセンターなどの活動はされているか。日本チームの強化センターができれば雰囲気も変わると思う。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・仰るように、企業を誘致すれば潤うということでもなく、例えば学校や国の機関を誘致して、それに伴って周辺の雇用が生まれるということは非常に大事なので、企業に限らず色々なところにアンテナを張って考えている。

(川名委員)

- ・ベンチャーも、既存の事業を育てていく方向に転換されているのはよいと思う。“Think Globally, Act Locally”（地球規模で考え、足元から行動せよ）というが、地場産業を育てることは大事である。
- ・主婦仲間では子どもができると OL 時代とは違って仕事を限定しなくなり、枝豆加工工場、鮮魚を捌く工場に勤めている人が多い。横須賀の枝豆や魚、メロンはとても美味しいので、そのようなところを育てて一つの雇用先としていけるとよいと思う。
- ・地産地消の次のステップを考えたい。地元で燻製屋があるが、漁師がとったものを燻製にしている。元々は立ち飲み屋だったが上手くいかず、燻製屋に特化したら評判がよくなり、また立ち飲み屋で燻製を出すようになってきているところがある。
- ・姉妹都市とのネットワークづくりも大事だと思う。商工会議所のサイトにもよく出ているが、隠れた地元の人しか分からないところを、横須賀だけではなく、他の地域のサイトにも載せてもらってはどうか。例えば、福島県のアンテナショップが東京にできたら横須賀のものも置いてもらう。その代わり YY ポートにも福島県のもの置いてみる。アンテナショップは銀座などよいところがあるので、収益の期待はできないかもしれないが、ファンがつけば横須賀の知名度が上がる。
- ・47CLUB という地方紙厳選のお取り寄せサイトがあって、お土産物をお互いの新聞に載せたりもしている。地方都市もお互いに手を取り合って、市場の奪い合いをするのではなく、市場を広げる取り組みをしたらよいのではないか。

(細野委員長)

- ・六次産業化なども言われているがそういうことも考えなければいけない。各産業が連携して付加価値を高めていくことも大事かもしれない。

(大武委員)

- ・計画立案の過程でモデル地域などを検討されているかもしれないが、観光ならこの地域のこれを目指す、農業ならこれを目指すというようにターゲットを明確にし、一般市民に分かるようにして、それに向かっていくような、一番を目指すような施策があるとよいかもしれない。
- ・観光でも、箱根の方向を向くのか横浜の方向を向くのかなどによって、在り方が変わってくる。
- ・ヴェルニー公園に行き、軍港めぐりをして、さて次はどこに行くのか。どこでご飯を食べるのか。自然に行くところが決まるようなモデルプランをどこも考えている。そういうことをマスコミに流して、どこかにロケ地を設定してPRするのもよい。

(3) 重点プログラム5 「地域力を育む」

～地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり・
地域を支えるコミュニティ機能の強化～

事務局から、アンケート結果などについて説明を行った。

《アンケート結果》

- ・「実現を目指す都市の姿」（住民自治に根差した都市）の状況
平成23年度と比較して、DIは「現在について」「以前との比較」とともに変化がない
値はプラスで、特に「以前との比較」では20ポイントを超えている
- ・取り組みの方向性の状況
5-1は図表上でやや右下方へシフトしているが大きな変化がない、値はプラス
5-2は右上の方にシフト、DIもプラス
- ・「5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」の主な回答理由
現在について
良…自治会・子ども見守り隊・クリーン活動など地域主体活動が盛ん、地域が活性化している、住民の連係がよい、イベントが多い
悪…市の施策の不足感、一部・同じ人のみの活動、役員の独壇場など活動する人の固定化、地域の人間関係の希薄化
以前との比較
良…自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん
悪…高齢化による活動の衰退
- ・「5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化」の主な回答理由
現在について
良…自治会・子ども見守り隊・クリーン活動など地域主体活動が盛ん、コミュニティセンターの設置・活用
悪…市の施策の不足感、伝わってこない・活動を知らない、非活性・活動の縮小・参加者の減少
以前との比較
良…自治会・子ども見守り隊・クリーン活動など地域主体活動が盛ん、地域の連携、地域力を感じる、意識の向上
悪…高齢化による活動の衰退、若年層の参加が少ない・無関心
- ・「5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」の地域別傾向
今回調査
これまで唯一マイナスを示していた「西」地域の「現在について」のDIがプラスに転じ、全ての地域でプラス
23年度調査との比較
「現在について」「以前との比較」とともに「西」地域で大幅に上昇
「衣笠」地域で低下傾向
- ・「5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化」の地域別傾向
今回調査
全ての年齢層でDIがプラス
高齢層の実感が高い傾向、「30歳代」でも比較的值が高い

23 年度調査との比較

「30 歳代」が上昇傾向

「現在について」で、50・60 歳代が低下傾向

《重点プロジェクトの目標の状況》

- ・「5－1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」

（仮称）地域運営協議会の設置数：平成 24 年度実績では 7 カ所設置済み、3 年後の目標に向かって推移

- ・「5－2 地域を支えるコミュニティ機能の強化」

コミュニティセンター 1 日当たり平均利用者数：前々回から後退、基準値も下回っている

市民公益活動団体からの協働事業の提案数：前回実績から倍増し、目標を達成

（西原委員）

- ・横須賀には町内会・自治会が約 370 団体ある。規模にばらつきがあり、会員が多いところで 2,000 人、少ないところで 30 人程度である。300～600 人ぐらいが適正規模だと思う。
- ・回答理由を見ると肯定的な意見もあるが、一方で「何もしてくれない」という否定的な意見もあり、地域差が大きいと思う。規模の大小と地域差が多いということが悩みである。
- ・役員の任期の基準は 2 年にしているが、1 年任期のところは 1／3 程ある。役員が毎年交代すると何もできない。末端の当番をする方は半年などで交代してもよいが、幹部は数年務めてもらわないと、やりたいことができないし、やり方も分からないままになってしまう。
- ・人材はたくさんいる。隠れている人をどうやって地域に引っ張り込むか。色々な社会で経験を積んでいる方、或いは卒業した方がいる。現職に就きながらも活動ができないことはない。
- ・地域運営協議会は、町内会だけでなく社会福祉や観光や PTA などを地域で抱え込んで協議しようとする団体なので、これからよい効果が出てくるのかなと思う。もっと活発になると地域も活性化されると思う。
- ・横須賀は他市と比較して活発だと思う。心強い町内会もたくさんあるが、何もしない町内会をどのようにして引き上げていくかという課題はある。
- ・女性の方も会長は少ないが幹部役員は結構いるし、福祉や文化、環境は女性が中心である。壮年層にもう少し引っ張っていただけるとよい。

（山本委員）

- ・校長として地域にお願いをする立場で、地元にはあまり関わっていないが、資料のどこを見ても「子ども見守り隊」という回答が見られる。ボランティアで子どもたちの登下校を見守ってくださったり学区内を巡回してくださったりしている。高齢の方が多いが、お孫さんが学校にいる訳ではなく、自分の地域の子どもたちだからという姿勢で、グリーンのジャケットを着て、雨の日も風の強い日も、朝 8 時前から立ってくださったり、下校の時に集団で歩いてくださったりしている。本当に感謝の思いでいっぱいである。
- ・学校では、年齢の高い方が子どもたちに声をかけてくださったり、行政センターでの催しなどに誘ってくださったり、非常に子どもたちとの関わりを強く希望されている。子

どもたちの元気な姿や笑顔を見ていると自分たちのパワーになると仰っている。反面、若い年齢層の参加が少ないというところで、今の生活に一生懸命で、どうやって地域の子どもたちに関わっていくかということが難しい。地域と直結したイベントなどにも関連していくのかなと思う。

(川名委員)

- ・人が、地域に関わろうと思ったり、ネットワークをつくろうと思ったりする原動力は使命と評価だと思う。町内会でも、自分に割り当てられた役割があって、それで喜ばれると長続きする。同じ役割を共有している人同士はネットワークも強くなると思う。
- ・女性が町内会や地域で活躍しているのは、子育て支援と高齢者のお世話だと思う。町内会の子ども見守り隊、子供会のサポート、もちつき大会の準備などで、子どもが喜んで母親たちにも喜ばれるとまた来年もやろうと思う。
- ・「いきいきサロン」という取り組みを町内会福祉部会が行っているが、女性が多い。一人暮らしの高齢者のお茶の接待などをする。活動は高齢者が多く後継者が見つからない状況ではあるが、自分の親は遠方だけれど地域の方を、という使命と喜ぶ姿という2つがポイントかと思う。

(佐々木委員)

- ・個人的な見解になるが、自身は現住地に以前から住んでいた訳ではなく、転入してきた。町内は高齢化して子どもが少なくなり、御神輿を捨ててしまったなどということもあったようだが、今は同世代が入ってきたりマンションができたりして子どもがまた増えてきた。
- ・子供会、運動会、夏祭り、もちつき大会など、30歳代の転入者は、子どもがいると町内会活動での接点がある。上手に接点をつくって、親世代を巻き込んでいくようにしないと、徐々に高齢化していくし、一部の人だけが参加していてどうしてよいか分からないという状況になってしまうと思う。分かりやすく巻き込んでいく取り組みが非常に大事だと思う。
- ・一日会社で仕事しているだけだと年をとってから居場所がない、などと言われて取り組んでみたら、居心地もよくて、地域の方が声をかけてくれるし、防犯上も安心できるし、意外とよいことが多いと思う。
- ・一見、草刈りをするとか櫓をつくるとか面倒なことのほうが多く見えるのかもしれないが、それだけを前面に出してしまうと、なかなか転入してきた30歳代は参加しないと思うし、子どもが中学生になると接点がなくなってくるので、小学生ぐらいまでの間にいかに巻き込んでいくかという仕組みが大事だと思う。マンションなどではもっと難しいと思うので、どのように巻き込めるかがポイントだと思う。
- ・どちらかというと民間の取り組みになるのかもしれないが、市としてどのように取り組んでいるのかがもっと分かるようになっていけるとよい。地域運営協議会では例えばどのようなことをしているのか。

(事務局：上条政策推進部長)

- ・例えば、一つの地域で、一人暮らしの方の冷蔵庫に、緊急時の連絡先や既往症、掛け付け医などの情報を記載したカードをボトルに入れて保管することを決めて、緊急時など訪ねた時にそれを見れば分かるというようなことを地域の方が自主的に考えて取り組んでいる。(命の灯台)

- ・社会福祉協議会、PTA、町内会など、同じ地域にあってそれぞれコミュニティーに関わりが強い団体が、今までは縦割りで活動していたものを、横でつなげて知恵や人材などを補い合えばより機能的な活動ができるのではないかという発想で地域運営協議会は発足している。
- ・最初はなかなか難しかったが、徐々に行政センター管内でそのような動きが広がってきている。ますます発展的に取り組んでいくことで、活動が広範になって地域コミュニティーに貢献していただけたと思う。

(細野委員長)

- ・消防団ではどうか。加入したきっかけは何か。

(石坂委員)

- ・消防団は先輩に勧誘され、自主的に加入した訳ではない。しかし、入ってみると面倒なこともあるがそれ以上にやりがいはあるし、普段は大学で同じ世代の人としか話す機会がないが、様々な年代の方の話が聞けたり一緒に活動できたりする中で、プラスになることが多い。
- ・どのように参加させていくのかということは、消防団だけでなく他の活動でも難しい課題だと思う。消防団でも人材が欲しいので声をかけてはいるが、リスクがあるのでなかなか直ぐによい返事をもらえないのが現状である。

(葛委員)

- ・自治会、町内会に加入したことがない。実際にやってみたらよかった、充実したということは勿論あるだろうが、それは入ってみないと分からないことで、町内会を知らない人には、まず入らなければ意味がない。
- ・町内会などの活動は、若者がやることではないという意識があって、母親やそれより上の方がやってくれているとか何か活動しているなというイメージがある。町内会のイメージ自体を変えていないと若者は見向きもしないだろう。
- ・地域に根付いている企業の方に入っていただくことを考えてはどうか。この評価委員会でもビジネスの視点からの意見に納得させられることがある。企業の方に新しい風を吹かせてもらおう。新しいことを言ってもらえるだけでも変わっていくと思うし、学生はまちをつくっていくという体験が実際にできると思う。そのようなところをアピールしていくことも大事かと思う。

(西原委員)

- ・若い人を地域活動に引き込みたい。例えば、体育部会をスポーツ部会に変えた。そのような名称の変更だけでも壮年層が入ってくるようになった。子ども活動推進の会を町内に組み込むことによって若い保護者たちを取り込んで若返りを図っている。中間の 30、40 歳代はなかなか入ってくれないし、行事に出てくれない。以前より高齢化しているので大きな課題である。

(細野委員長)

- ・市の広報でも、活動している若い人たちを紹介するなどの取り組みがあってもよいかもしれない。

(西原委員)

- ・子どもの頃は参加していても、中学、高校、大学生になると離れていく。また社会人になると入ってくれることもあるが、どうしても高校、大学生は地域活動に参加してもらえない。

(松本委員長職務代理者)

- ・それは当然かと思う。その年代を敢えて引き込む必要はないのではないかと。先ほどの「アクションおっぱま」のように、テーマがあって、何かやることがないかということに関わっていく、また戻ってきてもらうということを考えた方がよいと思う。その地域にいる人は全員参加しなければいけないとなると難しい。
- ・自身のことを考えると、子どもが大きくなると自分の身の回りのことや別のところで忙しいこともあるので、なかなか参加できないということを気にしてはいる。年代が上の方が元気なので頼ってしまっていることもある。
- ・役員の方が頑張りすぎている点は気になる。関わると、関わった人が重くなるということがあって、薄く皆で担えるかたちにならないと、40、50歳代は入りにくい。今、人がいないところで入ったら、重くて動けなくなるのではないかと想像してしまう。

(西原委員)

- ・夏祭りで、露店を業者に頼まずに地域ごとに模擬店を割り当てたら、若い人たちが一生懸命取り組んでいる。そのような方法で引き込む努力をしている。何かお願いすれば、そのことは一生懸命やってくれるが、通常の活動はなかなか難しい。

(松本委員長職務代理者)

- ・そうやって少しずつ活動していくものなのかなと最近は思っている。全てを皆で同じようにということは難しいのかと思う。役員が頑張りすぎているので、皆が少しずつ担えるかたちにしていけないと入りにくいと思う。
- ・若い人の入口については、もう少しテーマがはっきりしているものとか、結果が見えるもの、成果が出るようなところでないと若い人はやりにくいのかと思う。地域活動は結果が見えるまでに時間がかかるので、トレーニングが必要だろう。
- ・都市計画部門では若い人の参画を促しているものがあるのではないかと。都市整備の条例や都市計画マスタープラン、景観、防災など、計画の策定や協議会などでの住民参加がある。テーマ型ではそのような取り組みが市でもあるはずで、それらに参画している人と自治会で活動している人が全く異なる場合もあるし、色々な関わり方で上手につないで取り込んでいくということもできるのではないかと。

17:00 閉会

第3回まちづくり評価委員会会議での検討内容、開催日時・場所を確認して閉会とした。

(以上)